

## ラオス障害者就労支援事業 中間報告添付資料 事業写真

### 1. 第1回車椅子製造研修 平成24年8月8日～17日



#### ① 製図

車椅子の構造を理解し、車椅子の製造、修理をするために、製図を4日間かけて、研修する。慣れない道具を使いながら、指導員のアドバイスを受け、製図の練習を行っていた。



#### ② 塗装

自分たちで作る車椅子なので、自分たちで色を決め、塗装した。既成の物ではなく、車椅子利用者に合わせて、車椅子を製造、修理するという考えの第一歩である。



#### ③ 組立

溶接し塗装したフレーム、ミシンを使って縫ったシート、各パーツを組み立て、車椅子とする。一度、組み立ててから乗ってみて、微調整を行い、完成。



#### ④ 研修終了後

今回スーパーバイザーとして、研修を監修したタイの車椅子製造専門家（前列中央）と記念撮影。前列の研修生2人が乗っている車椅子は今回の研修で製造したもの。

## 2. 第1回美容研修



### ①シャンプー

日本人美容専門家がシャンプーの仕方を丁寧に指導しながら、サービスの心得も指導する。研修生同士、互いにシャンプーをし合い、技術の向上を目指していた。



### ②ブロー

ラオスの女性の長い髪の毛を丁寧に扱いながら、ドライヤーを使い、乾かしていく。いつも笑顔で接客するように美容専門家からアドバイスがあった。

### ③タオルの洗濯

美容院の仕事はお客様の前だけではない。



お客様に気持ち良く、シャンプーしてもらえるように、タオルをきれいに洗濯することも大切

な仕事である。実際の美容院と同じように、研修生自らが全ての仕事を行う。



### ④研修後のミーティング

美容専門家が、少し踏み込んで、一人一人に生き立ちや障害について質問をし、本人に寄り添い、就労についてアドバイスをする。辛い過去を自ら話し、今までの抑圧された感情を、他の研修生たちに泣きながら話す研修生もいた。

3. ルアンパバーンにおける就労促進セミナー 平成24年8月21日、22日



①集まった障害当事者たち

当会の事業内容やルアンパバーン県教育局、労働局の障害者就労の方針について、熱心に耳を傾ける障害当事者たち。



②ワークショップ

当会の就労支援プログラムを紹介し、車椅子製造・修理、美容、ベーカリーの3つのグループに分かれ、起業の方法を考えるワークショップ。ベーカリーグループからは「パッケージはどのようにすればどうだろうか」など、具体的な意見が出されるなど、活発なワークショップであった。



#### 4. 第1回ベーカリー研修



①カッ

日本人パティシエのプロの技を前に、研修生一同、真剣にメモを取る。最初にパティシエから「お菓子作りは材料の分量と手順が非常に大切」と伝えられていたこともあり、分量や手順についての質問が後を絶たなかった。



②研修生によるクッキー作り

研修生たちをグループに分け、パティシエ、他の研修生が見ている前で、習ったばかりのクッキー、カップケーキを作る。その過程で、パティシエが適宜アドバイスをしていく。出来上がったクッキーをみんなで、味見をし、すぐ振り返りが行われていた。



③レシピの振り返り

分量や手順をもう一度確認する。メモが少し間違っていることもあったが、パティシエに再度詳しく説明をしてもらい、しっかりとしたレシピができあがった。



④研修終了後

自分たちで作ったクッキーと一緒に記念撮影。

5. 第2回美容研修



①人形を使つてのカット指導

最初は日本人美容専門家が人形を使い、カットの基本である、髪の毛の分け方を指導する。



②カット指導

カットモデルの協力を得て、美容専門家が解説しながら、カットしていく。研修生たちは真剣なまなざしで、美容専門家の動きを追っていた。



① 人形を使ってカット練習

一通り基本的なカットの方法が指導されたら、人形を使って、研修生自らカットの練習をした。人形と言えども、一度切ってしまうと、取り返しがつかないので、研修生たちは慎重に切る位置を見極め、ハサミを入れていた。



② ブローの練習

カットをした後のブローの練習を、人形を使って行う。お客様の要望に添えるように、いろいろな髪型のセットを練習する。なかなかうまくはいかず、何度も何度も練習していた。